

スマトラ沖大地震及びインド洋津波政府調査団に参加して

話題提供者：日下部毅明

はじめに

2004年12月26日に発生したスマトラ沖大地震及びインド洋津波の未曾有の被災を受け、3月13日から21日までの9日間スマトラ島沖大地震及びインド洋津波被害政府調査団が派遣された。これは復旧・復興支援にあたっての被災国の事情・状況を把握し、海外協力を含め、今後の地震・津波対策の一層の推進を目的としたものです。この度任国事情報告会「開発途上国における自然災害とその対応・対策」において、政府調査団に参加した経験をjついて話題提供致しましたので、その内容を簡単に紹介致します

被害の概要

調査団はタイおよびスリランカ両国の政府機関および地方政府から被害と復旧の現状、および復旧・復興方針について情報を収集しつつ、被災地の調査を実施しました。私の担当分野は道路関係の調査でしたが、政府調査団としては広範な分野について調査を実施しました。以下簡潔にそれぞれの調査結果を列挙します。

情報提供伝達

乏しい被災経験による仕組みの欠如

港湾・河川・海岸

水深変化、船舶の乗り上げ、施設の被害
道路

盛土部の洗掘、橋台の不安定化による橋桁の崩落



廃墟化したハンバントータの市街とテント



被災橋梁の応急復旧(スリランカ)

建築物

煉瓦造り一階建ての建物は壊滅的被害と東海の見られないRC造のホテル

ライフライン

井戸への塩水侵入、配電線及び沿岸部の変電施設の被災

農林水産業

立ち枯れ、田畑における砂の堆積、マングローブの効果、漁船の被害

環境

廃棄物・し尿処理の問題、珊瑚礁被害など自然環境へのダメージ

保健医療

大規模な感染症の集団発生は起こらず

復旧復興

発生7日以内の6つの優先事項、復旧・復興における13の優先事項(タイ)

知識・情報・危機感の重要性

津波から命を守るために知識、危機感、情報伝達が重要であることは、政府調査団の調査においても再認識させられるものでした。政府調査団の調査結果ではありませんが、英国の小学生が地理の授業を思いだし、津波の前兆を察知し、約100人の観光客を救ったなど、知識・伝承が人命を救った事例があります。一方日本には、例えば、津波の前に必ず地震があるなど、誤った知識が命を奪う原因となるなど、知識にも必要なレベルがあります。また知識があっても、自分の身に起こり得ることであるという個人の危機感、適切に避難勧告を出すなどの行動につながる防災関係機関の危機感がなければ、やはり被害を大きくする原因になります。

帰国した後、報告書等を書きつつ思ったことは、知識経験を伝承するためには、廃墟となった街や施設の被害写真をただ羅列するだけでは、全く不足であり、被災経験者、遺族の言葉を含め、その背後にある津波被害の様相を適切に伝えることの重要性でした。災害で失われるものの大きさ、理不尽さを実感し、誰かを(何かを)守りたいという意志を持つことが第一歩であり、具体の検討のための重要な手段が、津波が来たらどうなるか、イメージをできることだと考えます。現在国総研では災害のイメージをできるだけ具体的に持つために役立つ被害想定手法を開発中です。

国土交通省 国土技術政策総合研究所
危機管理技術研究センター地震防災研旧
室長 くさかべ たかあき